

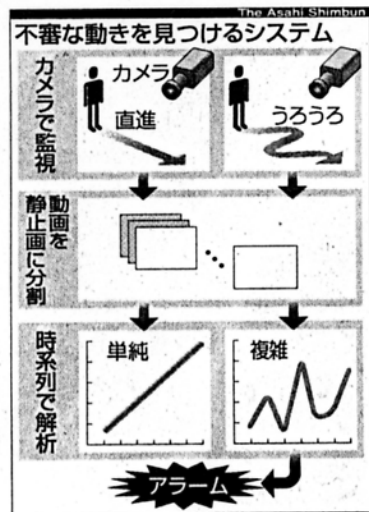
クセ者見抜く 監視カメラ

監視カメラの画像を即座に分析し、不審な動きがあれば検知します。ソフト開発ベンチャーのコンピュータコンピニエンス(福岡市)は、仮に警備担当者が画像を見落としても、素早く対応できるシステムを開発した。警備会社やカメラメーカーと実用化に向け調整している。

福岡市の企業 システム開発

犯罪の増加を背景に監視カメラの必要性が増しているが、多くの警備会社では少数の担当者が多数のモニターを監視しているため、重要な瞬間を見落とす恐れがある。1台のモニターで多くのカメラ画像を切り替えることもあり「すき間」の時間もある。この場合、リアルタイムの画像は確認できず、後から録画データで犯罪を確認すること

人間の行動を数値化



例えば、人が自分の車に向かつて歩く場合の変化は単純だが、ジグザグに歩いたり、キョロキョロしたりすると変化は複雑になる。この違いを識別し、不審行動を検出する。アラームを出すようにすれば、見落としも防げる。

このシステムでは、動画を1秒以下の単位で静止画に分割。その画像データから、動きを時系列に解析し、複雑さの変化を数値化する。

同社は特許も出願中。野藤泰昇社長は「カメラが高性能化して画素数が増えても、処理速度が落ちない」と話す。